

## 佐賀県研究成果情報（作成 令和4年3月）

[情報名] 黒毛和種去勢肥育牛 26 ヲ月齡出荷は通常出荷よりも1頭年間所得が43千円多くなる

[要約] 肥育素牛導入体系における黒毛和種去勢肥育牛 26 ヲ月齡出荷では、出荷回転率が向上することで、通常出荷よりも1頭あたり年間経営費が140千円多くなるが、年間粗収益が183千円多くなり、年間所得が43千円多くなる。

[キーワード] 26 ヲ月齡出荷、経営評価、素牛導入、黒毛和種去勢肥育牛、短期肥育

[担当] 上場営農センター・研究部・畜産・果樹研究担当

[連絡先] (0955)82-1930 uwabaenousenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 上場営農専門部会

[専門] 飼養管理

### [背景・ねらい]

肥育牛経営においては生産コストの低減を図り、肥育農家の所得向上につながる出荷月齡早期化に対応した飼養管理技術の確立が急務となっている。そこで、当センターでは26 ヲ月齡出荷（肥育期間17 ヲ月）と早期化しても、通常の約29 ヲ月齡出荷（肥育期間20 ヲ月）の枝肉と同等の成績が得られる飼養管理技術を明らかにした（令和2年度佐賀県研究成果情報）。ここでは、この飼養管理技術を用いた際の経営評価を行う。

### [成果の内容]

1. 肥育素牛導入体系における黒毛和種去勢肥育牛の26 ヲ月齡出荷は出荷回転率が向上することで、通常出荷に比べて1頭あたり年間経営費が140千円多くなるが、年間粗収益が183千円多くなり、年間所得が43千円多くなる（表2）。
2. 26 ヲ月齡出荷における1頭あたり年間所得は、平均枝肉重量541kg以上で黒字になり、545kgで通常出荷所得の5千円/頭と同等になる（図1）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 26 ヲ月齡出荷の飼養管理については、令和2年度佐賀県研究成果情報「26 ヲ月齡肥育で前期に粗飼料を多給し濃厚飼料2.5kg/月程度増給すると枝肉成績が優れる」を参照。
2. 26 ヲ月齡出荷、通常出荷ともに去勢肥育牛6頭の試験成績を基に経営評価を実施しており、飼養頭数や経営規模によっては金額の増減が変化するため、導入するには十分な検討が必要である。
3. 出荷回転率は、26 ヲ月齡出荷が通常出荷よりも10%向上する（表1）。

[具体的なデータ]

表1 経営評価の主な前提条件

	26ヵ月齢出荷	通常出荷	備考
肥育開始月齢(ヵ月)	9	9	
出荷月齢(ヵ月)	26	29	
肥育期間(ヵ月)	17	20	
枝肉重量(kg)	570	528	令和2年度成果情報より
出荷回転率(%)	70	60	年間(12ヵ月)/肥育期間(17ヵ月、20ヵ月)×100

表2 1頭あたり肥育全期間及び年間所得の比較 (単位：千円/頭)

	26ヵ月齢出荷		通常出荷	
	肥育期間	年間 <sup>注1)</sup>	肥育期間	年間
粗収益 <sup>注2)</sup>	1,326 (+71)	936 (+183)	1,255	753
経営費	1,258 (+10)	888 (+140)	1,248	748
素畜費	801 (+0)	565 (+85)	801	480
飼料費 <sup>注3)</sup>	346 (+22)	244 (+50)	324	194
飼養管理費 <sup>注4)</sup>	69 (-12)	48 (+0)	81	48
販売経費 <sup>注5)</sup>	42 (+0)	29 (+4)	42	25
所得	68 (+61)	48 (+43)	7	5

- 注：1) 年間＝肥育期間の粗収益・経営費×(12/肥育期間)  
 2) 粗収益＝肥育牛販売価格(令和3販売実績より算出)  
 3) 飼料費＝原価(前期配合飼料61.9円/kg、中期配合飼料55.2円/kg、後期配合飼料56.2円/kg、大豆粕105.5円/kg、チモシー79.8円/kg、わら43円/kg)×飼料採食量(令和2年度成果情報)  
 4) 飼養管理費＝農業経営統計調査令和2年度肉用牛生産費去勢若齢肥育牛(農林水産省)の計より素畜費と飼料費を除いたもの  
 5) 販売経費＝解体・格付・販売手数料(令和3年度佐賀県上場営農センター販売実績)

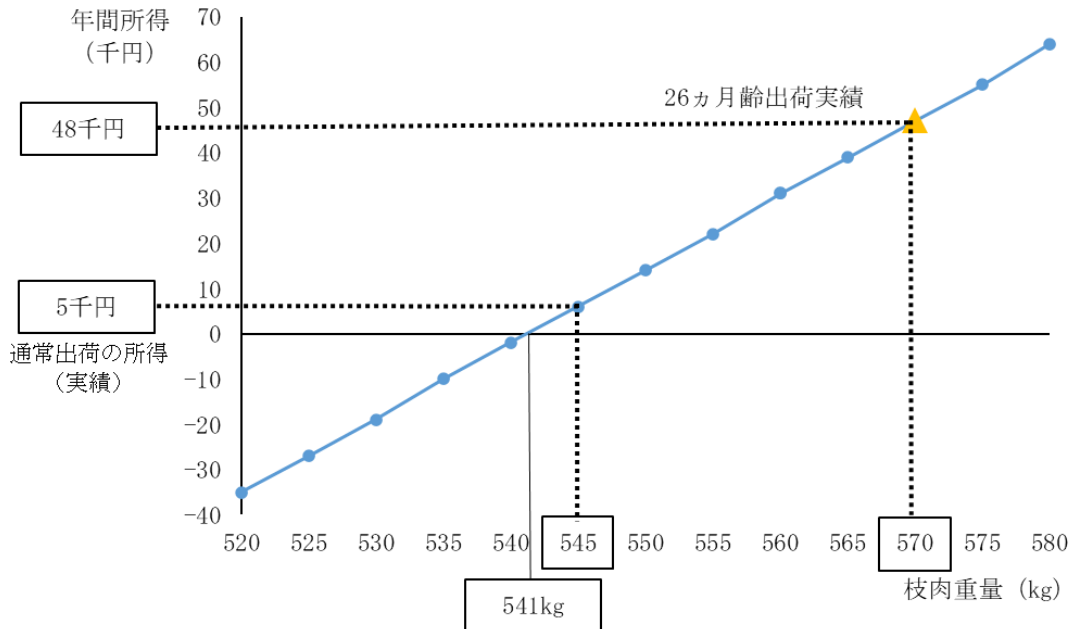


図1 26ヵ月齢肥育における枝肉重量と所得の変化

[その他]

研究課題名：肥育素牛導入体系での肥育形態における出荷月齢早期化に対応した飼料給与技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2018～2020年度

研究担当者：弓削尚之、池田繁成、向井彩音